令和6年度指定校発表会資料

三重県立上野高等学校

「新しい探究」への3つの試行

三重県立上野高等学校

- 生徒数：757名
  1年，2年：普通科5クラス、理数科1クラス
  3年：普通科6クラス、理数科1クラス
- 教職員数：56名
- 三重県伊賀地域の伝統校（旧制第三中学校）
- SSHⅡ期
- 大学進学者：244人/265人（内国公立54人）

学際探究科

- 令和7年度：普通科を学際探究科に

普通科5クラス＋理数科1クラス→

学際探究科4クラス＋理数科2クラス

- 「国内修学旅行」が「海外修学旅行」へ
- 「65分×5限」授業が「45分×7限」授業へ
- 「理数科1クラス」が「理数科2クラス」へ
- 「理数科・学際探究科」ともに「前期選抜」を実施へ
- 「セーラー服と学ラン」が「スーツ型制服」へ

学際探究科

伊賀を想い、世界を見据え、社会の

課題に挑戦し続ける人材の育成

- 変化の激しい時代を生き抜く力の育成
- 大学入学者選抜試験を突破する力の育成

発表の概要

令和7年度に開設する「学際探究科」のためにパイロット授業として「探究活動S」で、いくつかの試みを行いました。
そのうち以下の3つの「試行」について報告します。

【試行 1】ネット会議システムを使ったメンターの授業への参加

【試行 2】オンライン国際交流

【試行 3】探究人材育成コンソーシアムみえの活用

探究活動S

- カリキュラム開発を進めるためのパイロット授業
- 1年生39人、2年生43人（継続）が参加
- 1，2年とも2名の教員と普通科改革コーディネーターでサポート
- 授業時間以外にも活動
- 1，2年合同での授業も実施

【試行 1】

ネット会議システムを使ったメンターの授業への参加

【試行 1】

ネット会議システムを使ったメンターの授業への参加

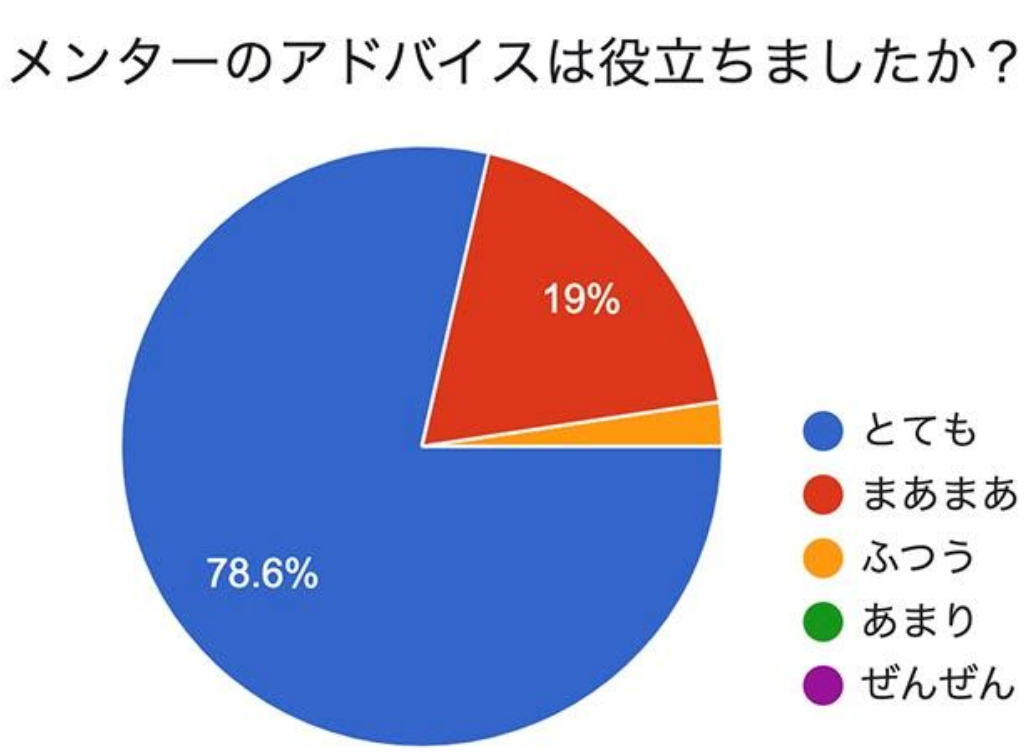
【ポイント】

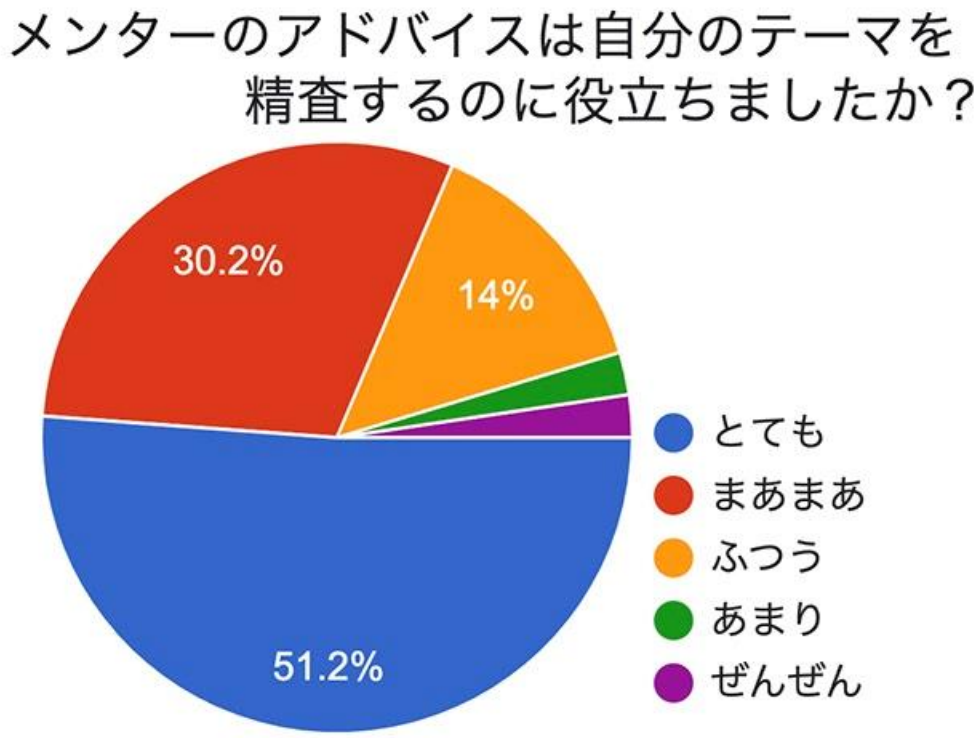
- ネット会議システムを利用
- 授業中にメンタリング
- 生徒4人にメンター1人
- 地元大学教育学部の支援
- 有償ボランティア
- 探究の課題についてメンターから「質問」

【試行 1】

ネット会議システムを使ったメンターの授業への参加

【生徒へのアンケート結果】



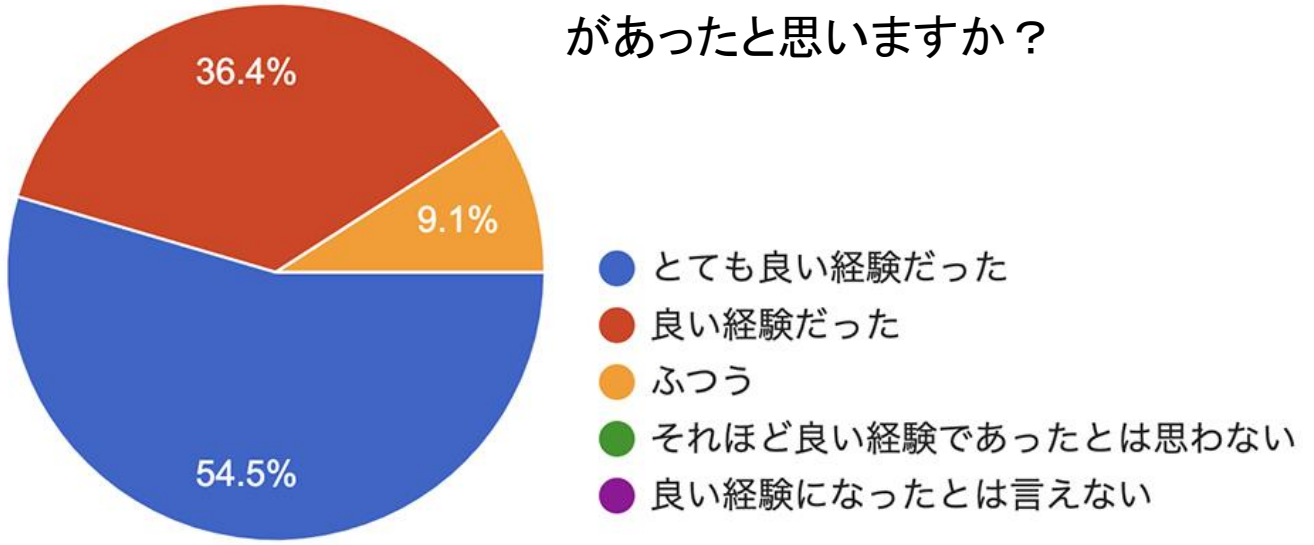


【試行 1】

ネット会議システムを使ったメンターの授業への参加

【メンターへのアンケート結果】

メンターとして参加したことにより「今後の皆さんの仕事等」に効果があったと思いますか？

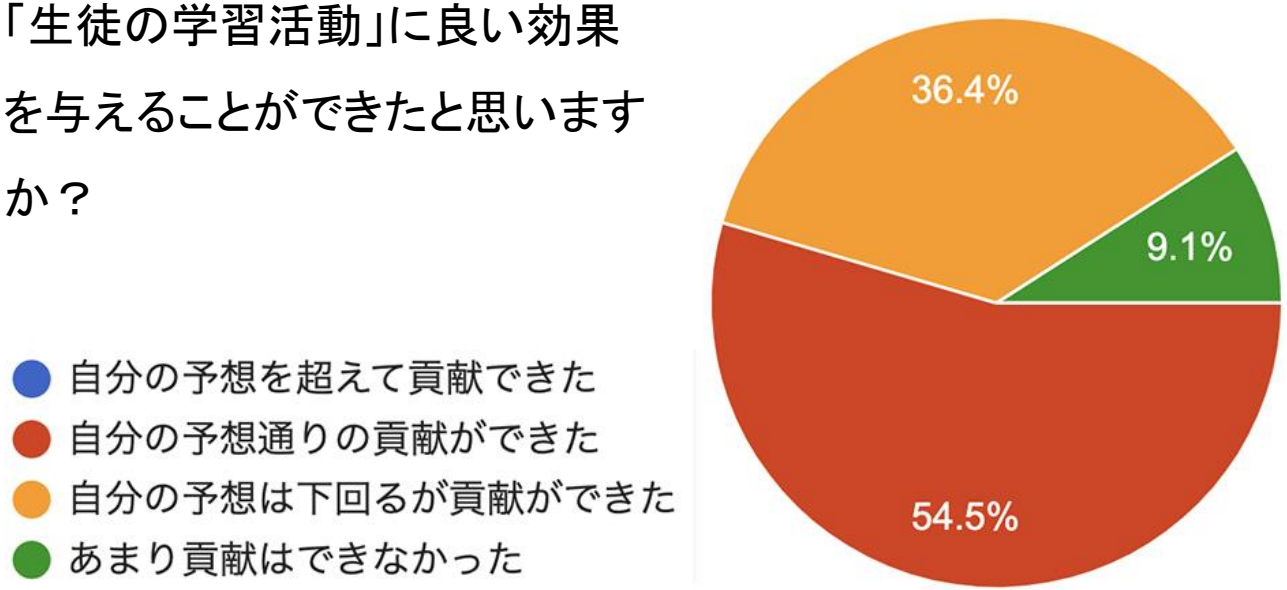


【試行 1】

ネット会議システムを使ったメンターの授業への参加

【メンターへのアンケート結果】

メンターとして参加したことにより「生徒の学習活動」に良い効果を与えることができたと思いますか？



【試行 1】

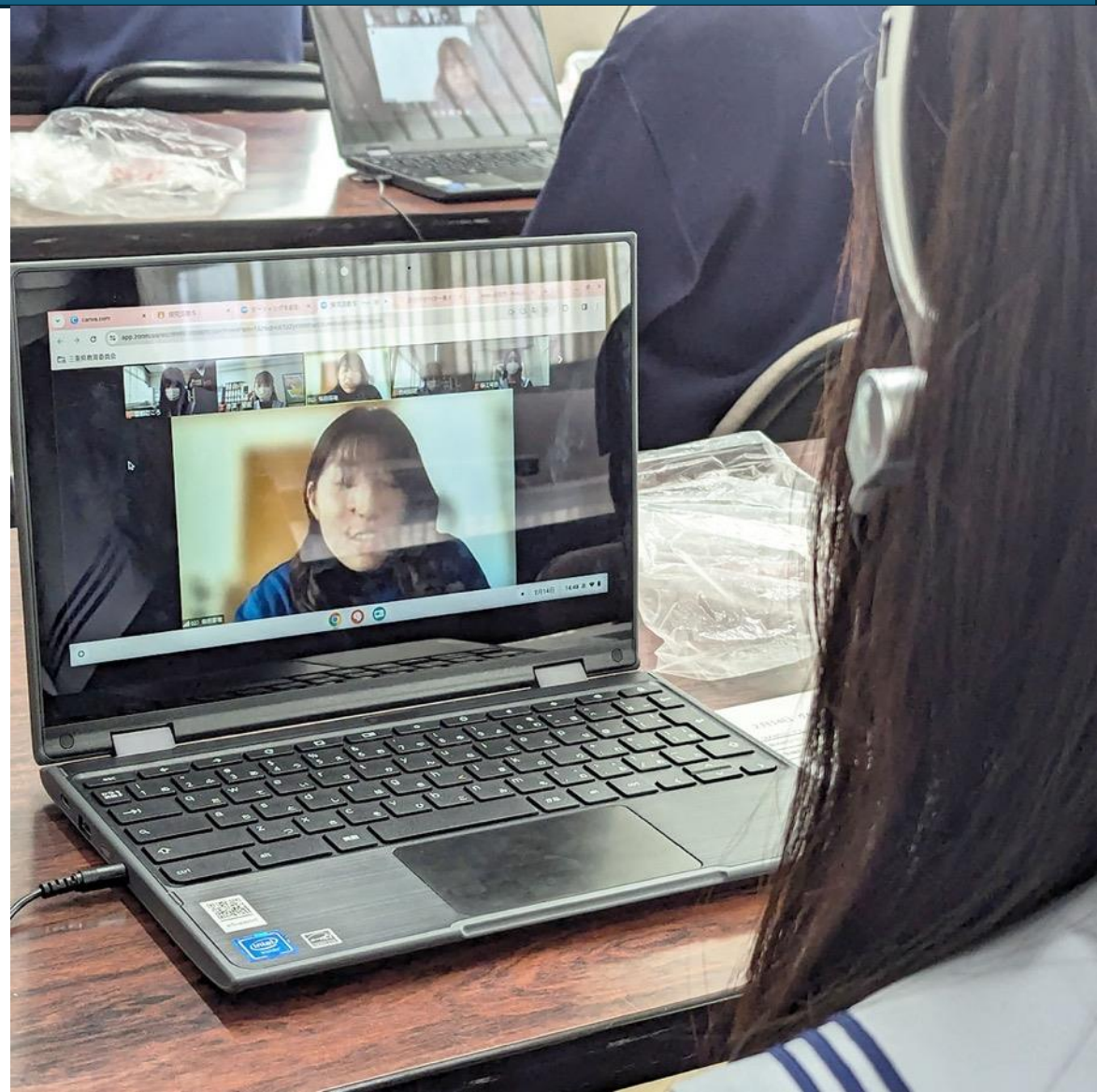
ネット会議システムを使ったメンターの授業への参加

【本年度の改善点】

【CN】
　授業に入る日時、時間を確実に

【大学】
　メンターのリーダーを置く
　メンターのミーティングを持つ

【生徒】
　メンターの役割がしっかりわかる



【試行 2】

オンライン国際交流

【試行 2】
オンライン国際交流

【ポイント】

- SDGsに向けて
- 自分のコミュニケーション能力に気づく
- できるだけ海外の高校生と1対1で
- 1年目はトルコとフィリピン
- 2年目はインドとフィリピン
- 話題はSDGs“ No Poverty ”

【試行 2】
オンライン国際交流

【指導計画】

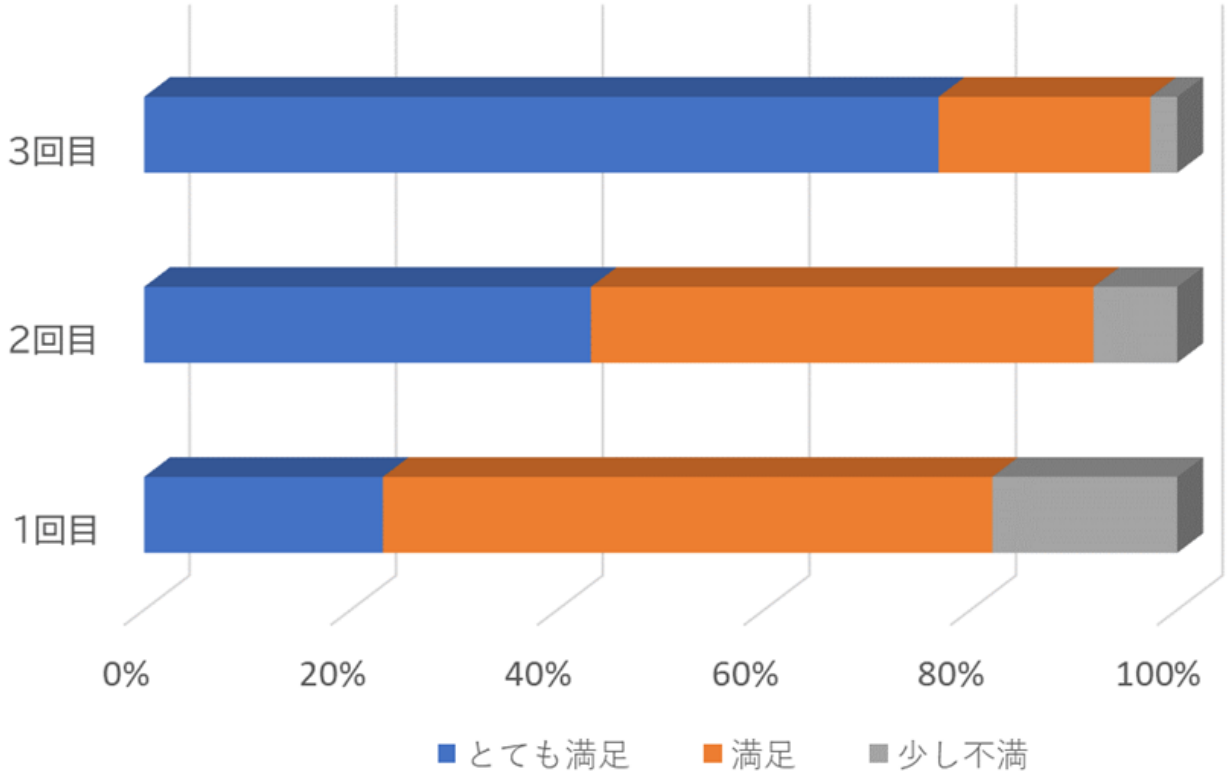
- 1回目：事前学習（SDGs“ No Poverty ”）
- 2回目：オンラインディスカッション Ⅰ
- 3回目：オンラインディスカッション Ⅱ
- 4回目：オンライン・スタディツアー

【試行 2】

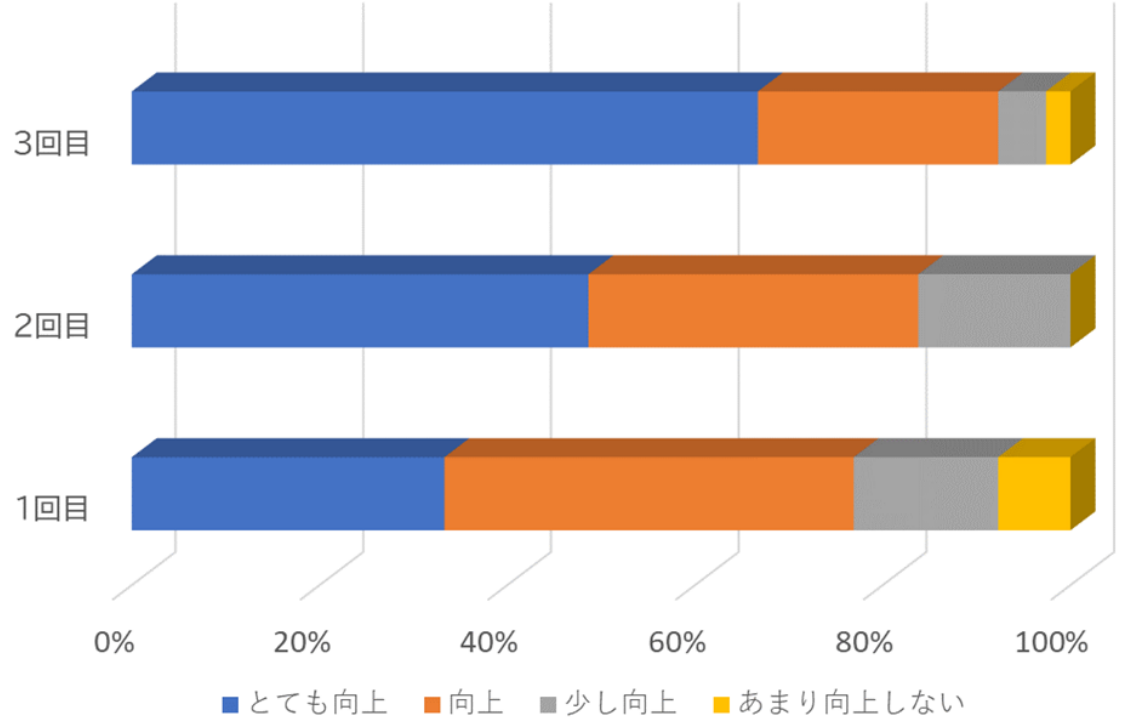
オンライン国際交流

【生徒の振り返りから】

交流の満足度



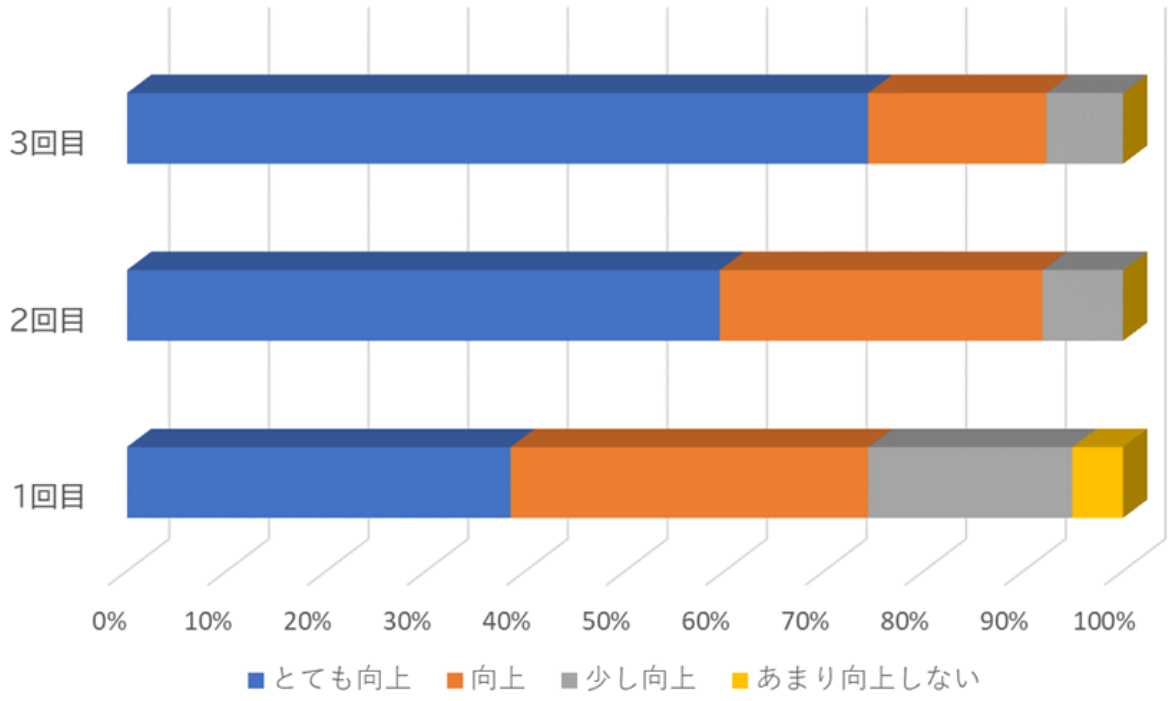
英語や外国語に対する学習意欲・関心



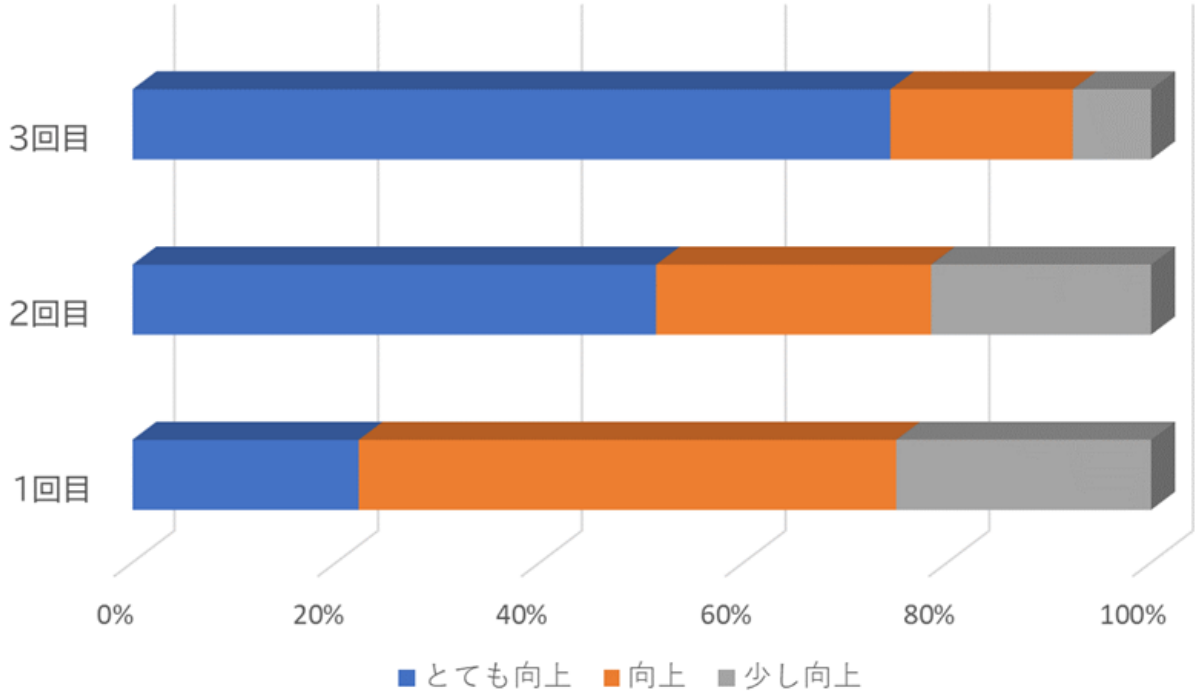
【試行 2】
オンライン国際交流

【生徒の振り返りから】

異文化交流に対する興味・関心



社会問題に対する興味・関心



【試行 2】

オンライン国際交流

【生徒の感想　youtube 】

【試行 2】
オンライン国際交流

【持続可能なアクティビティにするために】

大きな効果があると判断できるが課題もいくつかあるため、本年度より活動の内容を変更

【課題】

- 費用
- 学習の広がり
- 生徒と教員の自主性
- 交流後の展開
- 時間の制約

【本年度】

- 英会話学校の利用
- 10カ国の「大人」との交流
- 交流後の生徒の発表会
- 費用を大幅削減できる

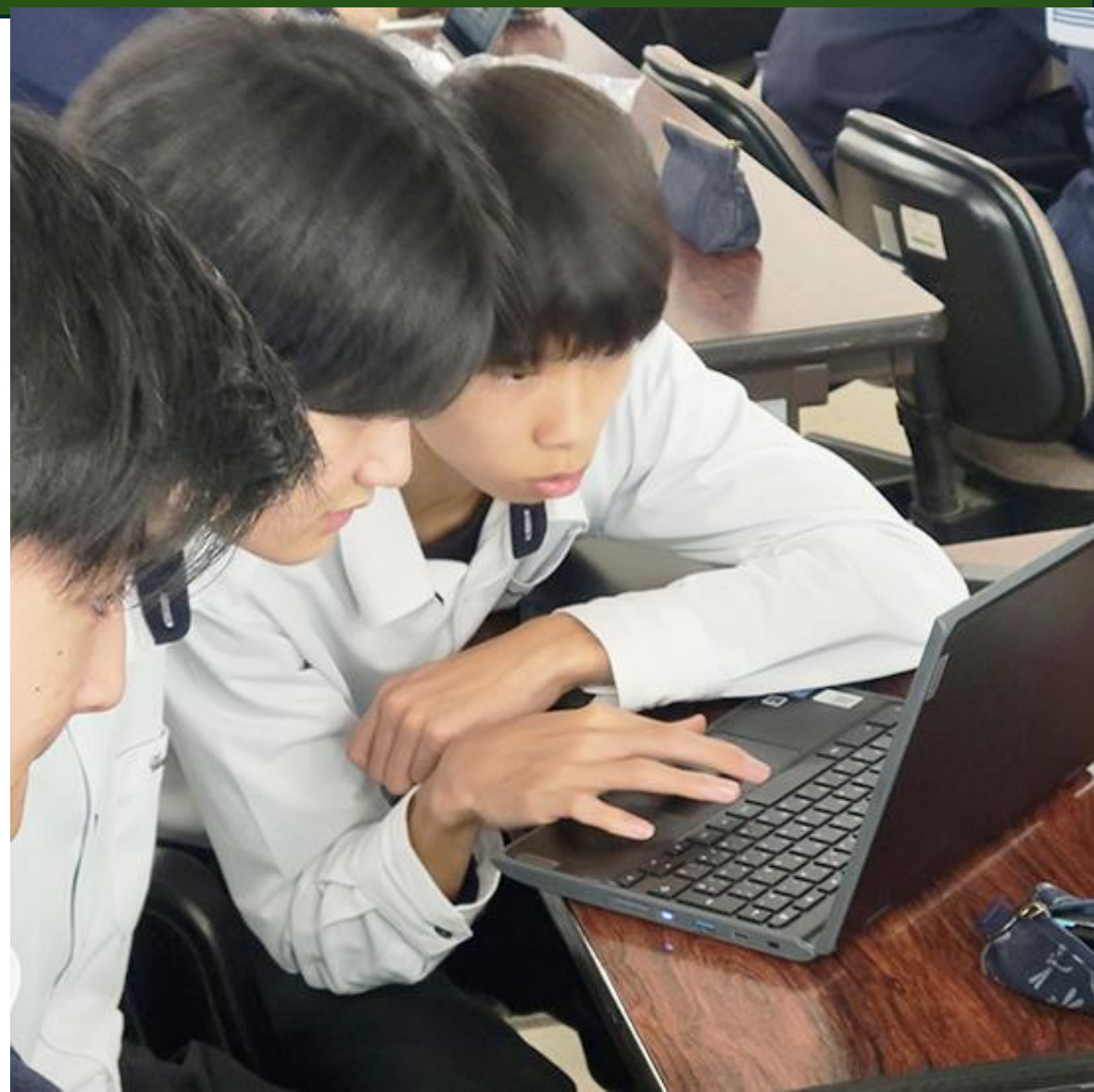
【試行 3】

探究人材育成コンソーシアムみえの活用

【試行 3】
「探究人材育成コンソーシアムみえ」の活用

【コンソーシアムのメンバー】

- DMG森精機株式会社
- 株式会社steAm
- グーグル合同会社 Google for Education
- 立命館大学
- 三重大学高等教育デザイン・推進機構
- 皇學館大学
- 伊賀市役所
- 名張市役所
- 三重県観光部



【試行 3】
「探究人材育成コンソーシアムみえ」の活用

【探究活動Sの探究課題】

- 貧困について理解を深めよう
- 食品ロスを減らそう ●
- 伊賀市の観光客を増やしたい ●
- 方言～地域の方言を好きになって～ ●
- 全国のだんじりと伊賀のだんじり
- 空家問題について、今、私たちができること
- 「発禁図書」から考える戦争と自由 ●
- 若者の生活環境と幸福度 ●
- 旧上野市街の飲食店マップを作ってみる
- 赤目48滝の魅力 ※
- 上高生温泉の沼にハマるの巻 ※
- 水を簡単に浄化できる設備
- 上野高校の魅力発信

※は既に支援を受けている
●は支援をお願いする相手が決まっている

【試行 3】
「探究人材育成コンソーシアムみえ」の活用

【ポイント】

- コンソーシアムの活用は本年度の最重要ポイント。
- 会議は年2回、オンラインで実施。本年度から実質的な活動が始まる。
- 探究活動に、コンソーシアムのリソースをどのようにつなげるか。
- コンソーシアムはあくまでも生徒の主体的な課題探究の支援であり、コンソーシアムのリソースありきの課題設定になってはいけない。
- 全ての課題への支援ができるか？

管理機関として

- 「探究的な学び」をすべての授業の変革につなげるために、授業を支援する私たちも「探究」を続けていく。

- 想定通りいかなかったり、失敗もあるが、それが教員のスキルアップにつながり、さらに生徒が「探究って楽しい」と思うモチベーションアップにつながるよう、悩んでいる教員とコーディネーターを支援していきたい。